

卒業生のひとこと

浅見 幸好 様

和元年5月私は宮崎県日向市にIターン、そして10月放送大学「人間と文化」コースに入学しました。しかし半年足らずで、新型コロナウイルスが世界中にパンデミックを引き起こしました。私達放送大学の学生も例外ではなく、面接授業の中止、学習センターへの立ち入り禁止、単位認定試験が学習センターから自宅へ変更等々、経験したことのないウイルスに戸惑うばかりでした。そして単位認定試験が現在のWeb試験になる以前は時間制約がなく緊張感に欠けており、このままでいいのかと疑問を持っていました。そこで卒業研究にチャレンジし「狭き門」を通ることにしました。

卒業研究は、私の場合はフィールドワークから始まり、指導教授との7か月にわたるオンライン授業のなかで少しずつ論文の型になっていきました。そして苦悩の連続から少しずつトンネルの先に光が見えてきたかと思うと、今まで書き綴ってきたものを捨てる勇気が必要になったりと、私にとって「狭き門」そのものでした。

今は亡き夫との約束であった「大学卒業」を果たすことができ、喜びでいっぱいです。そして古希を迎え、次の終活目標のために英語と英会話の学びなおしを始めています。

宮崎学習センターのスタッフの皆様には、放送大学附属図書館の貸出時に大変お世話になりました。また、今年度末をもって退任される所長の松下洋一先生には、卒業研究申請時から提出まで相談にのって頂き心から感謝いたしております。ありがとうございました。